



豊中市こども未来部

はじめに

市制施行 80 周年記念冊子『子どものつぶやき』

豊中市は、平成 25 年(2013 年)4 月に「子ども健やか育み条例」を制定し、子ども一人ひとりが健やかに自分らしく育ち、そして、子どもや子育て家庭に関わる全ての人がつながり、社会全体で子どもを愛情深く育む地域社会の実現をめざしています。

また就学前施設では、「豊中市人権保育基本方針」にもとづき、一人ひとりの人権を大切にすることを基本に、全ての子どもに豊かな感性を育て、お互いを大切にすることをめざした人権教育・保育を進めています。

この人権教育・保育の中で大切にしてきた取り組みの一つに「子どものつぶやき」があります。子どもは、日頃から大人や友達と関わり成長しています。その関わりの中で、子ども達はいろいろな気持ちや思いを、しぐさや言葉などで表現していることを『つぶやき』と捉えています。

保育園やこども園、児童発達支援センターなどで、つぶやき(子どもの声)を応募し、代表的なものを毎年市役所ロビーでパネル展示を行い、市民に公開してきました。そこで、20 数年前から取り組んできた「子どもつぶやき」がたくさん集まっています。

この度、市制施行 80 周年を迎え、これまでの「子どものつぶやき展」で紹介してきたつぶやきの中から抜粋し、『市制施行 80 周年記念・子どものつぶやき』として冊子を作成いたしました。この冊子から子どもの素直な声や気持ちをくみ取っていただければ幸いです。

0歳児

まねっこ まねっこ

保育室で。

あきら「ブ～ ブ～」

と口をとがらせて ブーブーと 音を出し、保育者を見てニコリ。見ていた あいちゃんが、つたい歩きで近づいて保育者に抱きつき

あい「ブ～ ブ～」

ともちゃんも、うつぶせの体勢から 急に両手をついて 顔を上げ

とも「ブ～ ブ～」

と、音を出してニコリ。みんなで一緒にブ～ブ～！の大合唱。



おんぶがいい



朝のおやつ時間。

おんぶしていた ちかちゃんに「おやつ食べる？」と聞くと、お菓子を持って食べる様子だったので下におろしました。

そのとたん、ちかちゃんは、手に持ったお菓子を投げ捨て、今までおんぶされていたおんぶ紐をゆびさして大きな声で泣き出しました。

すわっておやつ…ではなく「おんぶがいい！おんぶじゃないんだったらおやつはいらなの！」と、しっかり自分の思いを主張しています。

なでなで

朝のおやつ時間、お外に行きたい くみちゃん。

保育者「おやつ食べてから行こうね」

くみ「あ～ん」（うつぶせになって ふわふわマットの所で泣いている）

いつもよくあそんでいる かよちゃん ももちゃん。

（くみちゃんの 両サイドに寝転がり、顔をのぞきながら なでなで）

二人の顔を見て、少し気持ちも落ち着いた くみちゃん。

保育者「どうする？ おやつたべる？」

三人は、水道のところにやってきて、手を洗い始めました。

0歳児クラスの子どもたちも少しづつ、まわりの友だちのことも目が向きだし、「かなしいよね」「だいじょうぶだよ」という思いを“なでなで”という行動で表していました。



いっしょにあそぼ

お部屋であそんでいた ひできちゃん。
阪急電車のおもちゃを2つ見つけ、

ひでき 「んー んー」

ひとつを みきひさちゃんに差し出しました。

みきひさちゃんは電車を受け取り、二人で電車を走らせて遊び始めました。

もうだいじょうぶだよ

あみちゃんが“どてっ”とこけました。

あみ 「エ〜ン」

保育者 「痛かったねー大丈夫？」

保育者とあみちゃんのやりとりを見ていたしんじちゃん。

しんじ 「いたい？ いたい？」

と、あみちゃんの頭をなでています。
痛みがとれたように泣き止んだ あみちゃんの姿に「一緒っていいな」を感じました。

どうしたの？

部屋を移動するときのこと。

保育者 「ホールに行くよ〜！！」

りこちゃんは保育者の方に歩いてきます。

ふうかちゃんは何歩か歩きますが（先生、待ってよ〜）と、すねて寝転んでしまいました。

ふうか 「ウ〜ン」

りこ 「ア〜ア〜・・・」

りこちゃんが ふうかちゃんのそばに行き、うでを引っ張ります。

ふうかちゃんは、すくっと起き上がりまた歩き出しました。

年齢が小さくても友だちの力はすごいなあと改めて気づかされました。



よしよし

お部屋でトコトコ歩いていた あゆむちゃんが転んでしまい…。

あゆむ （大声で泣く）

りゅうじ （あゆむちゃんの大きな泣き声にびっくりしながらも あゆむちゃんをじっと見ている。そして あゆむちゃんのところへトコトコ歩いていき頭をなでなで…）

保育者 「あゆむちゃん痛かったね〜。でも りゅうじちゃんによしよししてもらってうれしかったね〜」

突然の泣き声に、驚きながらも あゆむちゃんのことを見つめる りゅうじちゃん。

いつもの泣き方ではない あゆむちゃんの様子から “痛かった？”の思いを0歳児なりに感じていました。

1歳児



か…し…マン…マ

朝のおやつの上に

「カブト虫にも ごはん あげないといけないね」と話をし、おやつを食べたあと、カブト虫のえさを忘れていた保育者に

えいた 「か…し…(カブト虫)」

「か…し…マン…マ」

ゆり (カブト虫のケースを指さす)

保育者 「あっ！カブト虫にも ごはんあげないとね」

えいた・ゆり 「うん」

はい どうぞ

ビーチボールで遊んでいた時、一人一個ずつボールを持っていたのですが、かずこちゃんの手にはボールがありませんでした。

それを見た なりあきちゃんが

なりあき 「かずちゃん ボールないのー？」

かずこ 「……」

周りをキョロキョロしてボールを見つけると

なりあき 「はい、かずちゃん！かずちゃんのー！」

かずこちゃんは、なりあきちゃんにボールをもらおうと、大事そうにかかえていました。

大好きな友だちが、ボールを持っていないことに気づき、渡そうとする なりあきちゃんの姿です。友だちを思う気持ちが伝わってきました。



スーちゃんの

日本語で『おはようのうた』を歌い終わると

とも 「つぎ、スーちゃんの」

保育者 「そうだよね！次はベトナム語のシンチャオ
(おはよう) で歌おうね」

スー 「スーちゃんの」

と言ってニコニコ笑う。

毎朝集会で歌っているの、周りの子も当たり前のように スーちゃんの国のことばを受け入れています。





きんぎょちゃん いたい?

病気になって死んでしまい、動かない金魚を取り出す様子を見ていた
みぎちゃん

み き 「きんぎょちゃん、いたい？」
「ネンネ？」
「おちゃくり？」（おくすり）

自分たちは病気やケガをすると、病院に行ったり、冷やしてもらったり、
薬を飲んだりして、それで治ることがなんとなく分かってきています。
金魚も同じように薬を飲めば元気になると思っている子どもたちです。

せんせー みきちゃん ちょうだいって

グループに分かれて、おやつを食べている時

み き 「ちょうだい」（ジェスチャーしながら）

保育者が気づかずに 他の子に配っていると

かおり 「せんせー みきちゃん ちょうだいって」
保育者 「あっ ごめん すぐもっていくから」

友だちの困っていることに気づき、保育者に知らせてくれた かおりちゃん。保育者は気づかなかった事に「ドキッ」としました。



こうしてね ほらね

お昼寝前、トイレでパンツをはいていない じろうちゃんに

はなこ 「じろうちゃん、こうして、こうして。ほら、できるでしょ」

はなこちゃんが じろうちゃんの隣でパンツをはき始めました。
見ていた じろうちゃん

じろう 「あし、あし」

と、パンツをはき始めます。

じろうちゃんがはき終わるまで待っていた はなこちゃん。

友だちのことが気になったり、友だちの真似っこがいっぱい出てきます。



だっこ うれしいな～!

朝、保育所に来て、部屋の母の膝に座ろうとする まさきちゃん。

母 「ダメー ちょっとまって・・・」

と、膝からおろされます。それでもママにくっついていく まさきちゃん。

母 「うるさいなー」

立ち上がり 朝の支度を始めますが、用事が終わって

母 「もう あんたはうるさいなー」

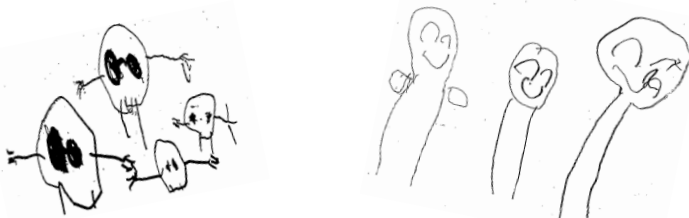
と言いつつ だっこ そして 好き好き～と ぎゅっと抱きしめます。まさきちゃんも べったりとくっついて甘えて嬉しそう。

母 「じゃあ 行くね バイバーイ」

まさき 「バイバーイ」

と、にっこり。

ぎゅっと抱きしめてもらうと 心が落ち着いて気持ちよくバイバイができました。



そーっとね!

バッタやカマキリを捕まえ、みんなで手に乗せたりして見ていました。

み き 「そーっとね! み・る・だ・け!!!」

え り 「コワイ!!!」

はやと 「ギュッしたら あかん」

手に持っている友だちに

かなこ 「イタイ イタイしたらダメヨ!」

一匹足が取れていました。

み き 「あしないね～ けがしてる!」

「うえだ先生 (看護師) いく?」

“虫さんも自分たちとおんなじやねー” と思って、接している姿から、小さな虫の命も大切に思う子ども達です。

ぎゅっしたらあかんで！

だんご虫を手にのせてもらった ゆたかちゃん。
その手を握り締めそうになった時、

けいこ 「ぎゅっしたらあかんで！ ちんどう（死んじゃう）」
ゆたか 「しんじょう？」

そう言いながら、そーっと手を開く。
丸まっているだんご虫を そばにきた えつこちゃんに渡して、3人で見ていました。

けいこ 「ねんねしてるー おきてー」

だんご虫が動き出す。

えいこ・ゆたか・えつこ 「おきたー！！！」

虫が好きな けいこちゃん。

虫が死ぬことを感じたり、心配したり、友だちと一緒に喜ぶ姿が見られます。



ジブンで！

ロッカーの引き出しを開けて

保育者 「今日は この服着ようか？」
けん （走ってきて）「ジブンで！」

けんちゃんは、保育者が選んだ服を引き出しに入れて、自分の好きな服を選びました。

保育者 「あっ ごめんごめん。けんちゃん これが良かったんやね。」
けん （満足そうに）「これ！」

ついつい大人は子どもの気持ちをくみとって対応していると思いがちですが、1歳児クラスの子どもたちの中には「自分で〇〇したい！」という気持ちが芽生え始めてきています。「自分で決めた」という自己決定力を育むことは、周りから自分は認められている存在であるという自信にもつながり、その力は仲間関係へと広がります。



2歳児



まだ 痛そうだよ

あみちゃんが転んで泣いているところへ

みんな 「だいじょうぶ？」

と、みんな集まり 声をかけている。

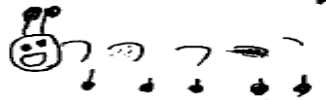
保育者 「さあ、お薬付けたし、もう大丈夫！行こうか？」

みんな 「うん」

と歩き出す。

あみちゃんは、まだケガが気になり見ている。

それに気づいた ゆきちゃん



ゆき 「もっと、ゆっくりいって」

友だちが困っている様子に気づき、声かけをした ゆきちゃん。

薬を付けたらもう大丈夫ではないんだねと、保育者も反省しました。

守ったるから！

おやつを食べている時に雷が鳴り出しました。

すぐに みすずちゃんの元に さゆりちゃんが駆け寄りました。

さゆり 「大丈夫！守ったるからな！」

その一言で みすずちゃんは泣かずに手を洗いに行きました。

おやつを食べながら

みすず 「さゆりちゃんが守ってくれるから大丈夫」

以前に雷が怖くて泣いていた みすずちゃんのことを覚えていた さゆりちゃん。

さゆりちゃんのことばに、ほっとしたみすずちゃんでした。



バイバーイ

ゆかりちゃんは、お腹の大きな ふうちゃんのママを見つけると、いつもそばに行き「あかちゃんは？」と聞いています。

ある日・・・

ゆかり 「ふうちゃん バイバーイ」

ふうちゃんと手を合わせてハイタッチする。

ゆかり 「あかちゃん バイバーイ」

ふうちゃんのママのお腹にもやさしくタッチしました。



これあったよー

砂場で遊んでいた あみちゃん。

バケツの取っ手がとれたので、付けてほしいと保育者のところに持ってきました。

保育者 「これはなかなか直らないね。違うので遊ぼうか？」

あ み 「イヤイヤ」

と泣き出してしまふ。それをみていた ゆりちゃん。

ゆ り 「これは？」

と違うバケツを持ってきてくれる。

あ み 「ちがうのー」

と泣き出す。じっと見ていた みおちゃん。

み お 「これあったよ」

と同じ色を見つけ持ってきてくれました。

あ み (にっこり)





な!

給食中、運動会の時にクラスで使った「♪ハッピー ジャムジャム♪」の歌が流れてくると…

のりか 「これ のりかちやの うたやで」

たかし 「たかしちゃんの うたや！」

のりか 「じゃあ のりかちゃんと たかしちゃんの うたやな！」

たかし 「な！」

ずっと二人の会話を聞いていた ふみこちゃん。

ふみこ 「な！」

たかし 「ふみちゃんは ちがう！」

ふみこ 「う～ん」

のりか 「じゃあ のりかちゃんと たかしちゃんと ふみこちゃんの
うたにしよ！」

たかし 「うん！」

ふみこ 「な！」

のりか・たかし 「な！」

給食の途中で大好きな歌が流れてきたので、大盛りあがりの子どもたち。

にぎやかな楽しい雰囲気の中であった コマです。

友だちと共感し合うこと、受け入れてもらうこと、友だちの思いを受け止めること、大切ですね。

「な！」の一言で通じ合えたらステキですね。

パパ だっこして!

夕方お迎えに来た時「早く帰るよ」と、先を歩く父に

さやか 「パパ だっこ」

父 「早くして」

さやか 「だっこして」

父 「早く帰るよ」

さやか 「パパ おこってない？」

父 「怒ってないよ」



と、やさしく抱っこして、さやかちゃんの ほほにチュウをしました。



つかってたん？

園庭で遊んでいるときに、ひろきちゃんと さちこちゃんが、砂遊び用のおもちゃを取り合っていました。

けいと 「どうしたん？」

心配そうに2人を見る。

ひろき 「さちこちゃん、とってん！」

けいと （ひろきに対して）「つかってたん？」

ひろき 「つかってた！」

けいと （さちこに対して）「つかってたん？」

さちこ 「・・・」

けいと 「ひろきちゃん いややーって。かしてー やで」

おうちにきても いいよ

弱っているセミを捕まえた ひろちゃん。

動かないセミを見て

ひ ろ 「せんせい、セミうごかへん」

保育者 「うーん。セミさん、しんどくて動けないのかな」

近くで見っていた かよちゃん。

か よ 「抱っこしてあげないと」

保育者 「抱っこしたら治るのかな？」

ひろちゃん、捕まえているセミの方を見て

ひ ろ 「おうちに帰らなあかな。ひろちゃんのおうちに きてもいいよ！」

自分たちの経験から、「こうしたら元気になる」ということを考えた つぶやきです。



ちっちゃないわ!

鉄棒で ゆりちゃんがぶらさがっていると

よしお 「ゆり、ちっちゃいから あぶないわ!」

ゆり 「ゆり、ちっちゃないわ」

クラスの中で体の小さい子は、赤ちゃんという見方がありました。
いろんな遊びや生活をしていく中で、いや!と言えるようになりました。



自分でやらせてよ

たえちゃんに、なんとかして水分をとらせようと、抱きかかえてお茶をすすめるお母さん。

母 「たえちゃん! たえちゃん! お茶飲んで! ハイ飲むよ」

たえ (そっくりかえって、お母さんの手を振りほどく)

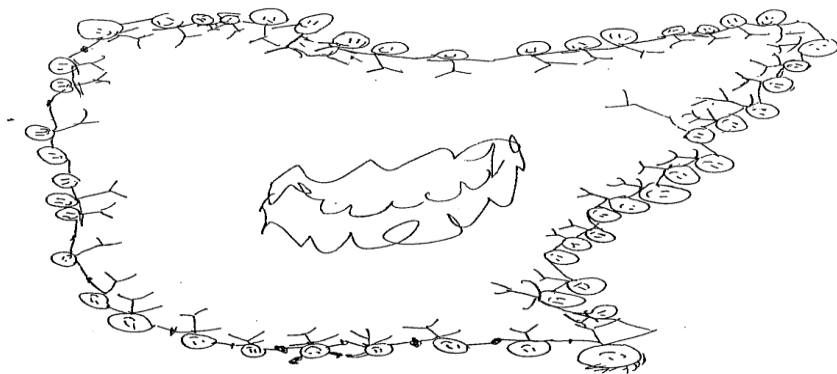
保育者 「たえちゃん お茶いらないの?」

母 (お茶を飲ませることを諦める)

たえちゃんは、自分で手を洗いに行って戻ってくると、ちょこんと座ってコップを持ち

たえ 「しえんしえー (先生) くーらしゃい (ください)」

保育者・お母さん 「自分でしたかったんやねえ」



たくちゃん！ながいぼう あったでえ～！

給食後ブロックで遊んでいる時、たくやちゃんが けんちゃんのプロックを、いきなり取った。

けん 「ながいぼう、たくちゃんがとった！」

しんご 「けんちゃんの！」と取り返す

たくや 「いや～ん！」

まき 「たくちゃん！こっちにも ながいぼう あったで！」

たくや （にっこり）

はやくって いってる

「かおかお どんなかお」の絵本を見ている時

笑っている かおのページを見せながら

保育者 「どんな かお してる？」

じゅり 「わらっている かお」

次に、怒っている かおのページを見せながら

保育者 「どんな かおしてる？」

あ い 「はやくって いってる」

「はやく はやく」と声をかけている時は、
大人のペースに合わせようとして
怒ったような余裕のない表情をしている時があることを、
つぶやきを聞いて気づかされました。



3歳児



知らん顔せんときや～

3人の友だちがパズルをして遊んでいました。

- けん「よせて～」
とも「・・・」
けん「なあ～よせて～」
とも「・・・」
めい「けんちゃんよせてって言うてるのに知らん顔は、あかんで～」
とも「だって……。一人でしたいねん！」
めい「じゃあ『あとで』っていわなあ～」

いっしょにもってかえろ

一枚の広告紙をみながら…

- のぞみ「これねー（広告紙）お家に持って帰る！」
るい「それほくもほしい」
のぞみ「だめ！！これ私の」
るい「それ持って帰るのだめやで！ひとつしかないからみんなほしくなちゃうでしょ」
のぞみ「でもこれわたしほしいの」
保育者「そっかあ、じゃあどうしたらいいのかなあ？」
のぞみ「るいくんは、なにがほしいの？」

二人で一枚の広告を見ながら話をしました。

- のぞみ・るい「せんせいここはさみできて」
るい「ほくはこれとこれ」



ともだちのかお

マットの上やビニールプールの中にボールを入れてボールプールで遊んでいます。けいこちゃんとみほちゃんがその中で寝転んで遊んでいると、しょうじちゃんがそばに寄ってきてみほちゃんの顔に自分の顔を近づけてじっと見えています。

しょうじ「・・・・・・・・」（じっと見ている）

みほちゃんもしょうじちゃんの顔を見て

みほ「・・・・・・・・」

言葉にはならなかったけど、お互いに笑いあっていました。
同じクラスになって4ヶ月。
友だちのことが少しずつ気になっています。

だいじょうぶか？

リレーの途中で転び、大泣きしている たかちゃんにすぐ駆け寄っていく ひろちゃん。

ひろ 「たか だいじょうぶか？ ひろがいっしょにはしったろか？」

相手チームの ひろちゃんが、すぐに駆け寄る姿を見た他の子ども達も急いで駆け寄り「だいじょうぶ？」と心配そうに声をかけていました。
たかちゃんは、友だちの優しい気持ちがかになり、最後まで走ることができました。

ほく うるさい？

お母さんと手をつないでの帰り道。

ゆたか 「今日なあ・・・」

ゆたかちゃんは今日の園での出来事を次から次へと話します。
お母さんは、静かにまっすぐ前を見て歩いています。
ひとしきり話し終えた ゆたかちゃんが

ゆたか 「ゆたかくん うるさい？」

母 「うん」

二人は無言で手をつないで歩いて行きました。

お母さんに会えて上機嫌の ゆたかちゃん、今日のお母さんは仕事帰りで疲れていたのでしょう。

ゆたかちゃんの聴いてほしい気持ちと大人に気を遣っている様子など ゆたかちゃんの諦めや我慢する気持ちが伝わってきました。



まってや

たろうちゃんと、さやかちゃんが 隣同士で“うんこ”をしていました。

保育者 「たろうくん、うんこ ふうか？」

たろう 「まだ でそう・・・」

保育者 「じゃあ またあとでくるね」

さやか 「おーわった！」

たろう 「さやかちゃん まててや〜！」

さやか 「いいで一。ひとりぼっちは さびしいの？」

日々生活をともにすることで子ども達は互いの色々な気持ちに気づき合っています。

たろうちゃんは、ひとりになるのは嫌という気持ちを友だちに素直に伝えられました。



うんうんって きいて！

給食の時、たかしちゃんが保育者に向かって話しているのを、保育者は片付けしながら聴いていた。

たかし 「せんせー うんうんって きいてー」
る い 「それ ぼくもほしい」

ごめんね。
ちゃんと向き合って聴いて欲しかったんですね。
ちょっと手を止めて聴いたら良かったと反省しました。



助けたらな！！

ある日、だんご虫が10匹ほど誰かに踏まれたのか、つぶれていました。

ひろき 「うわっ！！みてみてー だんご虫
いっばいつぶれてるー」
あつし 「かわいそうやな・・・」

しばらくじっと見ていた ひろきちゃん

たまみは 好きやで

一緒に遊んでいて、おもちゃの取り合いになりました。

たくや 「もう！！たまみちゃん、嫌い！」
たまみ 「嫌いって言うても、あっち行ってって言うても、
遊べへんって言うても・・・たまみは 好きや！」
たくや （怒ってた顔が・・・にやあ～！）

けんかをして、ふたりは仲良しです。



おばあちゃんたち 見えへんで

絵を描いている時に、たかとしちゃんの画用紙の隅に保育者が、名前を小さな字で書いた時のこと

たかとし 「そんな小っちゃい字で書いたら、
おばあちゃんたち見えへんで・・・」

たかとしちゃんは、老眼の祖母が普段から「小さい字見えへんわ～」と言っているのを聞いていました。



だっこ

「みなさん、きょうの宿題は“だっこ”です。おうちの人に抱っこしてもらってください」という内容の絵本を読んでいたときのことです。

さとし「さとしのお母さんなあ こしいたいねん。
だっこできへんねん。 くるまで きてん」

お母さんに抱っこしてもらうことが大好きな さとしちゃんですが、今日はお母さんの腰が痛いのが気づかって、我慢したようです。



おんなのこも おとこのこも いたかったら 泣くわ

かけっこの時に、もつれ合って転んでしまった ふじこちゃんと しんちゃん。
ふじこちゃんは大泣きして走ることができず、保育者と一緒に走りました。

保育者 「どうして 泣いたの？」

ふじこ 「いたかったから」

保育者 「しんちゃんは どうだった？」

しん 「(転んで走るの) うれしかった」

たく 「(しんちゃんは) おんなのこじゃないから つよかったし」

ふじこ 「おんなのこも つよいわ！」

けんこ 「おんなのこも おとこのこも いたかったら泣くわ」

4歳児

みくちゃんのこと すきやで

ななみ 「ななみ、みくちゃんのこと すきやで」
み く 「えっ!? なんて?」
ななみ 「みくちゃんのこと すきやで」
み く 「ほんまに!?ほんまに!?みくのこと?」
(びっくりしたような、嬉しいような表情)



おかあさん おいとかれへん

「おきなわ島の声」を読んだ時、お母さんが撃たれて子どもたちに「お母さんはいいから逃げなさい」という場面で、

さとし 「おれやったら、ぜったい おかあさんおいとけへん。

ヨイコラショ! っておんぶしてつれていく」

あきこ 「そんなんしてたら、自分もころされるやん」

さとし 「それでも、おかあさん おいとかれへん。

イヤヤ。 おれはつれていく」

ぼくがもうちょっと大きくなったら

初めての園生活に緊張気味だった なつきちゃん。

降園時間になり、園バスに乗車すると、ほっとする様子で よく話をします。

なつき 「ぼくのお父さん、遠いところにずっと出張してるねん。

だからお母さん大変やねん」

保育者 「そうだね。赤ちゃんもいてるしね」

なつき 「うん。お母さん、こないだ赤ちゃんを一人でお風呂に入れるのが大変で泣いてた。ぼく、どうしていいかわからへんで・・・ぼく小さいから何もできへんで・・・じっとしてた・・・ぼくがもっと大きくなったら手伝ってあげるねん」

たえこ おとこちゃうわ

たえこちゃんが、長めの髪をバツサリ切ってきた日のこと。

保育者 「たえこちゃん、髪の手きってきたのね」
こうじ 「たえこちゃん、おとこみたいやなあ」
たえこ 「たえこ おとこちゃうわ」(泣きそうになる)
しゅう 「しゅうのおかあさんも髪の手みじかいでえ〜。
でも おとこちゃうやんなー」
たえこ 「そうや たえこ おとこちゃうもん！」



ともだちの いいところ してるよ

「しかの自慢は、りっぱな つの」という紙芝居を見たあとで…

保育者 「この鹿は、つのが自慢やねんなあー。自分で自分の つのは
素敵やって思ってるねんなー」
かんじ 「ぼくの自慢はな〜……。やっぱりわからへん」
あ き 「あきは わかるでー。かんちゃんは、ケンカしてるときは
アカンけど、 やさしいところがいいところやで！」

友だちとケンカしたり、遊んだりしてきて知り合ってきました。
「ここがすてき！」って認めてもらうのって、うれしいですね。

一緒に持てばいいやん

砂場で山づくりをして遊んでいる時。

保育者 「洗面器に砂いっぱいになったら運んでね〜」
まさき 「まさき 一人でやるわ」
保育者 「めっちゃ重いよ」
まさき 「おとこやから ちからあるねん」
はるみ 「おんなも ちからもちの人おるよ」
さなえ 「そうやでー」
ひろこ 「重かったら、一緒に持てばいいやん」

一人では重たくて、友だちと一緒に運びました。



言ってることわかるで

言葉は増えてきたが、発音が不明瞭で伝わりにくい れおちゃん。
毎月の3歳児・4歳児・5歳児の交流する日、れおちゃんが名前を言おうとすると…

りくと 「どうせ れおちゃん シャベられへんでー」
は な 「しゃべれるで。いつもしゃべってるしなー！」

れおちゃんが はなちゃんにハグをする。

たいが 「たいがも れおちゃんの言ってること分かるで」

いつも れおちゃんのこと好きと言ってる はなちゃんと たいがちゃんが れおちゃん
の味方であり、同じクラスの仲間として自然に出た言葉です。



けんご へたくそとちがう

保育者 「けんごちゃんも なべなべしよう」
きよし 「けんごちゃん来ていらん けんごちゃんできへんもん」
まさこ 「けんごちゃん なべなべ へたくそやもん」

ケンカが始まる。

保育者 「何ケンカしてるの？」

あ い 「だってな まさこちゃんが けんごちゃん へたくそって言う
たから」

保育者 「あいちゃんは 昨日けんごちゃんと なべなべしてんなあ」

あ い 「あい 昨日けんごちゃんと なべなべしてんで！けんごちゃ
ん へたくそとちがうで！」

まさこ 「だって まさこちゃんな けんごちゃんと なべなべしたこと
ないもん。そやから わからへんかったの！」（涙ぐむ）

あやの 「ほんなら いっぺんやってみよう！」

けんごちゃんと あいちゃんと保育者が手をつなぎ輪になり、かずきちゃんと きよし
ちゃんが くぐれるように手をあげて

かずき・きよし 「けんごちゃん！ここ！（くぐって）」

グループ全員で なべなべをして、みんないい顔がみられました。

りくの わかる本!



り く 「りくの わかる本 かしてください」

保育者 「りくちゃん どんな本ですか？」

り く 「ブツブツの本(点字) かしてください」

目の不自由な りくちゃんが、絵本の内容やイメージを理解するには保育の中でどんな伝え方をすれば良いのか、保育者は日々考えていました。

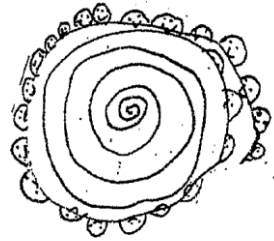
「りくの わかる本」という言葉は、りくちゃんが自信を持って自分自身をアピールしている表現です。

せんせい おしたるわ

妊婦の保育者が子ども達と階段をあがっている時

しょう 「せんせい おなかおもたいや
ろ・・・ おしたるわ」

保育者のお腹が少しずつ大きくなっていく様子をみてきた子ども達です。



い・れ・て っていうてるよ

みのるちゃんは、日頃から友だちに自分の気持ちを伝えることが苦手で困っていることがあります。

ある日、ひろこちゃん、しょうちゃん、ひかるちゃんが ままごとをして遊んでいるところへ、みのるちゃんが入ってきました。

みのるちゃんに通せんぼしながら

ひろこ 「勝手に入ったらあかん！」

しょう 「いれてって言わないとダメだよ」

みのる 「・・・」



ひかるちゃんは、みのるちゃん表情をじっと見て

ひかる 「(みのるちゃんが) い・れ・て っていうてるよ」

しょう 「なにも聞こえなかった」

ひかる 「聞こえたよ」

ひかるちゃんは、そう言って みのるちゃんを ままごとコーナーへ誘いました。

友だちの表情を見て気持ちをくみ取り、友達にしっかり伝えるひかるちゃんでした。

遊びの中で、こんな積み重ねが友達の間関係を深めていきます。

こんなんやったん わかったわー

あさちゃんは、身体が思うように動かせなくて寝たままで生活しています。
たかちゃんと ふみちゃんが同じように あさちゃんの隣に寝転んで…

たか 「いつも こんな感じで ねてるんや」

ふみ 「おおきな音して こわいなー」

あさちゃんの真似をして同じ体験をすることで、友だちが畳の周りを走る音の大きさに驚き あさちゃんのことを身体で感じています。

えさ あげたいねん

クラスで育てているカメの周りに、エサをあげに来た4人の子どもたち。
エサをあげすぎると、カメが困ってしまうので、5粒と決めただけれど、子どもたちそれぞれの手には2粒、5粒、10粒とたくさん握られています。

けいた 「エサあげたいねん」

ももこ 「わたしも」

あきら 「でも5粒しかあげたらあかんで」

りかこ 「・・・」

自分があげたい気持ちはあるが、自分だけ先にあげるのではなく、友だちの顔と手にのせたエサの粒と にらめっこしている子どもたちです。
この後もう一人来て、1粒ずつあげることに決めていました。



ほく 知ってるもん

5歳児の ゆうとちゃんが一段飛ばしで うんていを最後までやり遂げた様子を見ていた4歳児の子どもたちです。

たくや 「すごーい ゆうとちゃん」

よしお 「きりんぐみやもん あたりまえや」

たくや 「ちがうで。ゆうとちゃんは、あさも ゆうがたも ずーっとと うんていしてるもん。しってるもん」



そんな言い方で帰ろうと思うかな～

事務所に来ていた4歳児の あこちゃんを しばらくして呼びに来た5歳児の たろうちゃん と きみかちゃん。

たろう 「なんも言わんと行ったらあかんやろ！！」

きみか 「そんな言い方で あこちゃんが帰ろうとおもうかな～？」

ちょっと考えて

たろう 「あこちゃん、みんなが まってるで～」

その言葉で 三人は お部屋に帰って行きました。

おんなかって腹立ったら文句ゆうで

あやの 「ゆうた、危ないからちゃんとすわりや」

ゆうた 「うるさい、おとこに文句ゆうな」

女の子 「エー！」

ゆうた 「おんなは だまっとれ」

めぐみ 「おんなかって腹立ったら文句ゆうで」

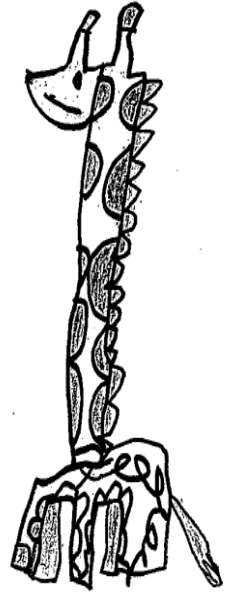
ち え 「そうや、おんなは なんでだまっとかなあかんの」

女の子 「そうやそうや、文句ゆうで」

ち え 「ゆうたのママも おとこに文句ゆうてるやろ」

ゆうた 「わかった。パパに おんなかって腹立ったら文句ゆうてもええってゆうとくわ」

5歳児



わらってほしくなかった

保育者がブラジルの本を見ながら 子ども達にブラジルの言葉（単語）で話かける。
それを聞いていて ゆかちゃんが笑うと

- み よ 「なんで わらうの」
ゆ か 「へんやおもって わらってない。なんか
むずかしくて おかしくなっただけ」
み よ 「パパがしゃべってる ことばやのに、
わらってほしくなかった！」

せんせい 勝手にきめんといてーやー

- 保育者 「今から外でダンスの練習をしよう。それからホールで馬跳びもしようか？」
だいき 「せんせい 勝手にきめんといてーやー、いややわー！」
ゆ か 「子どもだってやりたいことあるねんから」
みゆき 「そうや、そうだんしてからきめてーやー」

一人ひとりが優しくなればいいねん

平和月間で命の大切さについて、いろいろな取り組みをしてきました。
戦争の劇を見た後に…

- み か 「戦争って 怖いよなあ」
なおみ 「みんな死んだら会えなくなるからイヤヤ」
保育者 「日本は平和な国やけど、今も戦争している国があるねん。
どうしたら戦争なくなるかなあ？」
としき 「来年の七夕でお願いする」
けいじ 「みんな一人ひとりが優しくなればいいねん」



リレー

リレーのアンカーで相手チームに抜かされ、最下位になってしまった けいちゃん。くやしくて泣いていると、同じチームで けいちゃんの前を走る れいちゃんがやって来て

れい 「けいちゃんが一生懸命走ったの、かっこよかったで。私も明日もっと走るわ」

少しして泣き止んだ けいちゃん。

けい 「れいちゃん。バトン渡してくれて ありがとう。明日もがんばろうな」

と、2人は にっこり。
お互いの頑張りを認め合う姿がみられました。



笑ったことも いややったけど 笑ったのに笑ってないって言ったやろ！ それがもっと いややってん

運動会の練習で跳び箱を跳んでいてスポンがずれてパンツが少し見えてしまった まみちゃんを見て、たつやちゃん、つとむちゃん、じゅんちゃんたちが笑いました。

まみ 「わらわんといてよ！」

3人で顔を見合わせ

たつや・つとむ・じゅん 「わらってない」

と言って笑う。

泣いて訴える まみちゃん。



ゆかり・ひろみ 「なんでわらうん。わらわんといてー」

たつや 「わらって ごめんな」

まみ 「わらったことも いややったけど、わらったのに わらってないって言ったやろ。それがもっと いややってん」

たつや 「わらってごめん。それで わらったのに わらってないって言ってごめん」

つとむ・じゅん 「わらったのに ごまかして ごめん」

まみ 「わかった！もうあやまらんでいい」

友だちの真剣な姿に、何があかんかったのか答えを出せた たつやちゃん・つとむちゃん・じゅんちゃんでした。

その姿に納得できた まみちゃんでした。

楽しそうやから やりたいねん

運動会のダンスで使うポンポンを保育室に置いていたら、音楽をかけ 遊びはじめました。

- さとみ 「このポンポンは チアで使うんだよ」
はつえ 「チアは 女の子だけなんだよ」
保育者 「男の子は ポンポン使えないの？」
さとみ 「だって チアは女の子のダンスだもん」
かずや 「でも、楽しそうやから やりたいねん。かわいいし」
はつえ 「うーん。じゃあ一緒にやろ！」

大きくなったら

プールの防水工事で塗りなおした所が、2階からよく見える。



- ひろみ 「せんせいすごいで。プールがピカピカやー」
保育者 「ほんまやねー。きれいになってるね」
ひろみ 「ひろみなー、大きくなったら、あのお仕事の人になるわー」
保育者 「へえ、ひろみちゃん、プール綺麗にするお仕事するんや」
ひろみ 「うん！だって、みんなよろこぶやん！」

どんなお仕事したい？



- 保育者 「どんな お仕事したい？」
ひろ 「おまわりさんになる」
ようすけ 「看護師さんになりたい」
あみ 「え〜?? 看護師さんは おんなの人しか いないのに」
みんな 「え〜！おとこの人もするで〜！病院いった時見たで〜」
そういち 「ぼく トラックの運転手になる」
ゆきよ 「ゆきよも トラックの運転手になる。だってママみたいに
トラックの運転したいもん」

大切なものやろ！

みなとちゃんは、思いが通らないことがあると 自分の眼鏡を投げてしまいます。それを見ていた あかりちゃん。

あかり 「はい、眼鏡飛んでいったで？」

みなとちゃんに眼鏡を渡す。



みなと 「いやや、いらん」

と顔をそむける。

あかり 「どうしたん？怒られてイヤやったから投げたん？」

みなと 「うん」

あかり 「でもさあ、これって みなとくんの大変なものやろ？
眼鏡なくて見えなかったら困るやろ？
だから、はい つけーや」

眼鏡を受け取り、かける。

みなとちゃんと 仲の良い あかりちゃんは、みなとちゃんの思いを受け止めています。



大人も子どもも 同じ人間やのに

クラスの友だちと一緒に弁当を食べながら話をしている時。

あき 「うちのパパ、ご飯を食べたあと、すぐにテレビの前で寝るねんで。

『食べてすぐ寝たらダメだよ』ってパパに言ったら

『からだを休めてるねん』って言って……。

私も真似して寝たら

『食べてすぐ寝たらアカン。姿勢よくテレビ見なさい』だって。

『パパも寝てるやん』って言ったら

『大人はいいねん』って言うねん。

大人も子どもも 同じ人間やのに……」

いつも ともきの せいにするけど ちがうで！

みんなで手をつないでクルクル回って遊んでいましたが、途中でみんなのスピードが速くなりすぎて、手が離れてしまいました。

よしあき 「あーあ失敗や。ともきちゃんのせいや」

ともき 「ちがうでー……」

よしあき 「ともきちゃんが わるいんや！」

はるな 「よしあきちゃん ちがうで。みんなが速くなりすぎたからやで！」

よしあき 「……」

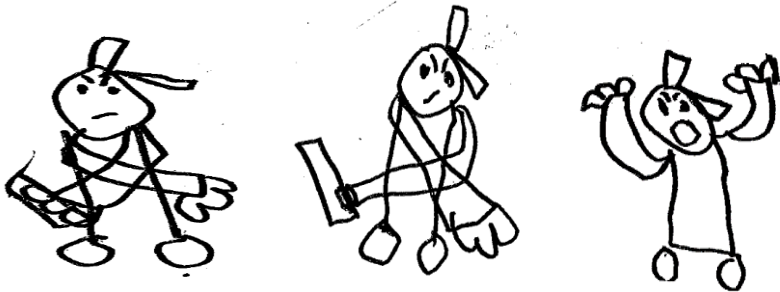
はるな 「そうやっていつも ともきちゃんの せいにするけど、ともきちゃんだけじゃないで。今のはみんなも速くなりすぎやった。よしあきちゃんだって、あかんかったやんか」

ふざけてしまって、遊びを中断させることが多かった ともきちゃん。

繰り返し遊ぶことで、気持ちを合わせることが楽しくなってきました。

でも何かあると、すぐに「ともきちゃん」と言ってしまうクラスの子も達。

はるなちゃんは、その時の状況をよく見て、ともきちゃんの せいではないことをみんなに伝えてくれました。



おかあさんと おとうさんが ケンカしてた

ゆうた 「おかあさんが、おとうさんに いやなことを言ってた。

『自分のことばかりしてる』って怒って泣いてた」

ともみ 「おかあさん怒ったら、いつも おばあちゃんとか帰っちゃう。

ともみの おとうさん トラックの運転手してるねん。

ほんで、おとうさん トラックでおかあさんを むかえに行くねん」

ゆうたちゃんは、後日「仲直りした！」とっていました。

カマキリとバッタ



さよ 「バッタ かわいそう」

かんじ 「カマキリはバッタさんに“ありがとう” 言いながら食べてるんとちゃう？」

自然の摂理を、子どもなりに受け止め、命の大切さを感じている子ども達です。

オレたちのグループのスタンツヤ

キャンプの取り組みとして、部屋でスタンツ遊びの曲「アナと雪の女王」をかけてグループで踊っている時。

たくや 「これ、女の曲やで」

あきら 「そんなん女とかちゃうし、関係ないやん」

さき 「男のひとも でてるで」

じゅん 「オレたちのグループのスタンツヤから、女とか（女の曲）言わんとってほしい」

あきら 「♪ありの～ままの～じぶんさがして～♪」

と、踊り始めました。

さき 「おもしろいで」

その言葉で三人一緒に にここお部屋に帰って行きました。



おこっているの わかった気がするねん

すごく怒り、涙が出ているが何もしゃべらない けんちゃん。

保育者 「どうしたの？」

けん 「・・・・・・・・」

あきこ 「あきこ知ってる！あきこと みことちゃんと けんちゃんの
3人で体操してたら・・・ひろしちゃんが来て『そんな女
とばっかりおったら女になるぞ』って言ってん。

みんな笑っててん。

はじめ、言ってること分からんし、けんちゃん何で怒って
るんやろ？って見てたら・・・何回も言うてた。

それを見て笑ってるのを見たらイヤやろな。

けんちゃんが怒ってるの分かった気がするねん」

保育者 「そっか～」

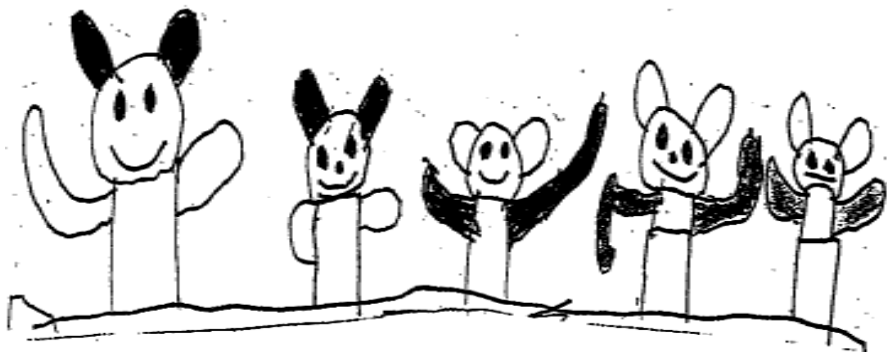
あきこ 「なんか分からんけど、イヤな気持ちやったんやろ？

なんて しゃべったらいいか、

分からんかったんとちゃう？」

けん 「・・・うん・・・イヤやった」

女の子、男の子に こだわらずに遊んでいた けんちゃんと あきこちゃん。
初めは、けんちゃんが どうして怒っているのか分からなかったようですが、
けんちゃんの嫌な気持ちに気づいた あきこちゃんです。



絵本「ひろしまのピカ」を読んで

ゆ か 「ばくだん おちたらイヤヤ」
け い 「こわい」
み ゆ 「ひこうきの中で考えたら分かるのって思う」
だ い 「あかんやろ！」
あ い 「しかも おとなやのに！」



「そんなことしたらあかんやろ！子どもにだって分かるで！」という戦争への、そして大人への怒りのメッセージに聞こえました。

いろいろ あるんやなあ

あつお 「これ なんのおやつなん？」
たけし 「おこのみやき みたいやな」
ももこ 「ピザみたいやな」
あつお 「ちがうで。まえ食べたけど ちがうかったもん」
保育者 「これは韓国・朝鮮という国の食べもので ちぢみ というねん」
あつお 「いろいろ あるんやなあ」



いきてたのに・・・

カブト虫の世話当番に来た わたるちゃんが、ケースの蓋を開けると、カブト虫が一匹 体がバラバラになって死んでいました。体の部分を、ひとつずつ拾って 手のひらの上の胴体に ひっつけながら…

わたる 「これは あたま・・・
これは あし・・・
これも あし・・・」

しばらく見入って

わたる 「いきてたのに・・・」

おかあさん きいて

園で怪我をした あつこちゃん。
手当てをしてもらいながら、怪我のことを保育者から母親に伝えて欲しいと言いました。

あつこ 「先生。わたしがケガしたこと、ママに電話して」
保育者 「うん。先生は お手紙を書こうと思ってたの。
でも あつこちゃん、自分でお話するかなあと考えていたよ」
あつこ 「・・・だけど、ママいつも“よう分からんわ”って
私の話 ちゃんと聞いてくれへんねん」





ほくの思いを 途中で きるな！

ゆうじ 「きのうな、外で あきちゃんたち、お母さんごっこしててな、ゆうじが『赤ちゃんやるから入れて』言うたのに、あきちゃんに『面倒みきれないから自分でみて』って言われてん。ほんでな『なんでやのん。そんなんイヤヤわ』って言いに行ったらな、あきちゃん ゆうじの顔も見んと『ごめん』って言って話 聞いてくれへんねん」

保育者 「ほかに遊んでた子は 何してたん？」

ゆうじ 「そのときな、たくや君が『聞いてあげえや〜！』って言うてくれてん」

保育者 「そんなふうに言うてくれる子がおって 良かったなあ」

ゆうじ 「うん。ゆうじの味方してくれて すごいうれしかった。ほんで帰る時、お母さんに言うたら『そんなにイヤやったら、もう あきちゃんと遊ばんととき』って 言われてん。そんなん いややねん」
「あきちゃんと言い合いしてスッキリさせたいねん」

その後、みんなの中で話し合う。

ち か 「あきちゃん、なんでそんなこと言ったん？」

あ き 「いっぱい子どもの役の子がおったから見きれなかってん」

たくや 「でもそんな言い方されたら ゆうじくんイヤやと思うで！」

ゆうじ 「ごめん言うにしても、ほくも あきちゃんも、いっぱい言い合ってからにしてほしかった」

あ き 「・・・ごめんね・・・最後まで聞いてから言うわね・・・」

ごはんって いいにおい!

しおんちゃんが、リーダーでお米を洗い 準備をします。

保育者 「もう ごはん炊けてるかな? リーダーさん見てくれる?」

リーダーさん達が、炊飯器の蓋を開け、ふわ〜と湯気があがる。

しおん 「わあ〜おいしそう! めっちゃいいにおいや〜! ごはんって、
こんないいにおいするんやな〜! いっつもチン! しても
いいにおいせーへんのに」

保育者 「ほんまやね! お米も こんなごはんになって、喜んでると
ちがう?」

しおんちゃん、あかねちゃんが炊飯器を覗き込み

しおん・あかね 「ほんまにうれしそう! だってピカピカしてるも
ん!」

きりん組になってから 給食がご飯の日には、ほとんど部屋でご飯を炊いています。

自分達で お米を洗い、炊飯器に準備して、炊きたてのご飯を食べています。

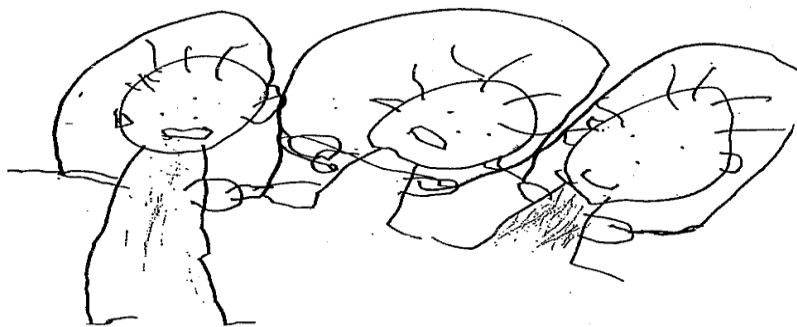
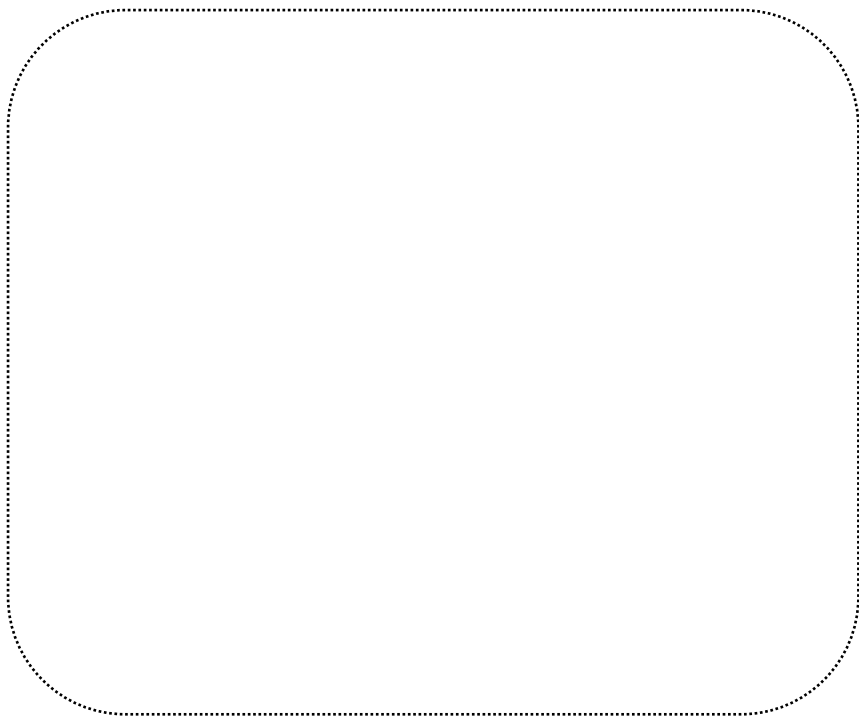
最近は、便利になった反面 “炊きたてのご飯のにおい” を知らない子どもも増えていま
す。

お米一粒ひとつぶの大切さを知ったり、炊き上がったご飯の色、つや、香りなど、友だ
ちと共に全身で感じ合っています。

まさしく食べることは、生きることですね。



「こどものつばやき」を、書いてみませんか？



「つぶやき」をとおして

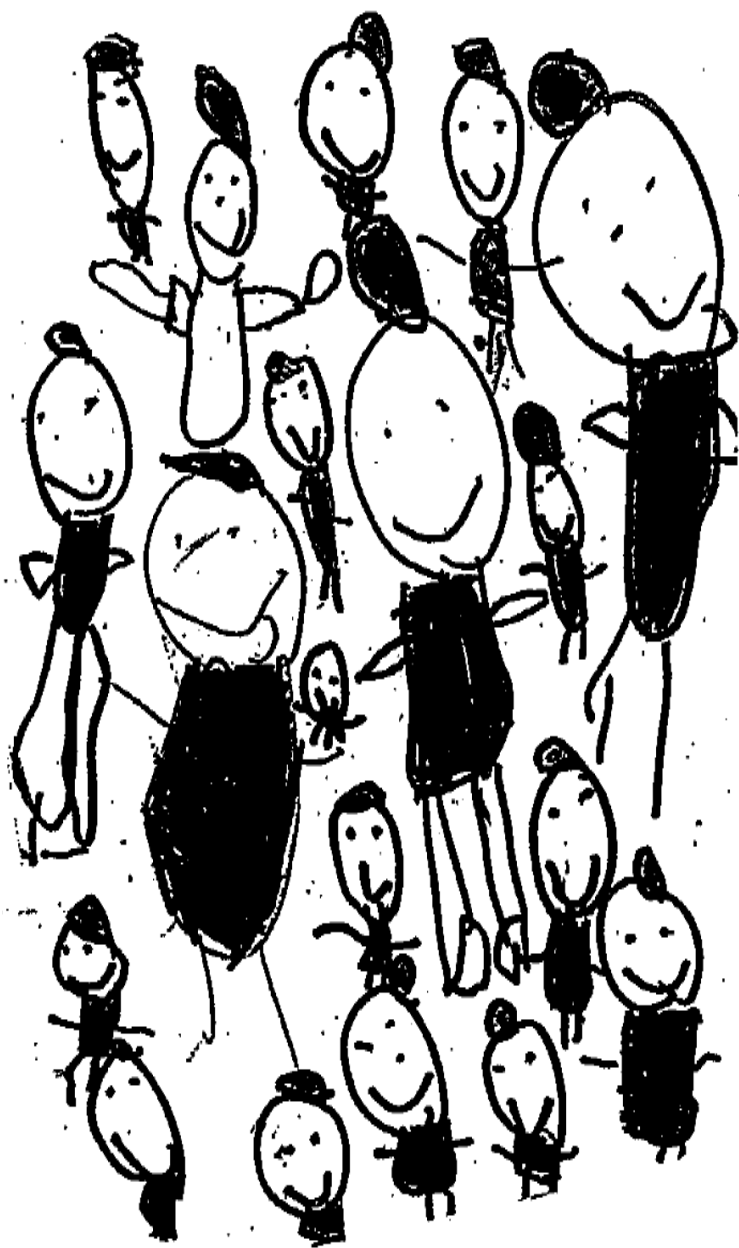
編集作業を終えて・・・

就学前施設では、「つぶやき」をとおして、子どもの生活や友達への「思い」をしっかりと受け止め共感すると共に、周りの友だちに伝え広げていくことを大切にしてきました。

このことは仲間と共に生きる子どもを育み、さらには、一人ひとりの子どもの人権を守ることに、つながっています。

子ども達が歩んでいく社会は、現在もいじめや風評被害の問題など、いわれなき差別や偏見があります。私達は、乳幼児期の教育・保育の中心に据えている“子どもの生きる力を培うこと”を目標に、教育・保育を進めてきましたが、より丁寧に、子どもの声に耳を傾ける必要を感じています。

子どもの「思い」を、私達大人がしっかりととらえ、子ども達を取り巻く周りの人々と連携しながら、「子どもの人権の大切さ」をこれからも発信していきます。





「子どものつばやき」平成29年3月発行